

平成27年度



学力定着度調査

品川区教育委員会

品川区では、平成15年度から、児童・生徒の基礎的・基本的な学力の定着状況を明らかにするとともに、指導方法の改善や教員の資質向上を図ることを目的として、品川区独自の学力定着度調査を実施してきました。

平成18年度からは、品川区独自の基準となる「品川区小中一貫教育要領」に基づき、9年間を通した系統的な教育活動を実現する小中一貫教育を進めてきました。この品川区小中一貫教育は、義務教育9年間を一つのまとまりとしてとらえた上で、1～4年生では基礎・基本の定着を図り、5～7年生では基礎・基本の徹底に重点を置き、8・9年生では教科、内容の選択の幅を増やし、生徒の個性・能力を十分に伸ばすことを目指し、教育課程を「4-3-2」の3つのステージで編成したものです。

この3つのステージのそれぞれの段階における学習内容の確実な定着について評価し、課題を明確にしていくことを目的とし、平成18年度からは4年生および7年生を対象に学力定着度調査を実施しています。

各小・中学校および義務教育学校では、本調査の結果を基に、各校における課題を教科ごとに分析し、そこで明らかになった課題を解決するため、指導体制、指導方法、指導計画等について、具体的な改善策を「態度表明」として示します。また、学校区ごとに、7年生の結果を基にした分析を行い、5～7年生のステージでの課題とその改善策について「小中連携グループによる学力向上に向けた取組」として公表します。

学力定着度調査の方法と内容です

①	調査は誰を対象としていますか	・平成27年度品川区立小・中学校に在学する4年生の児童および7年生の生徒全員です。
②	実施したのはいつですか	・平成28年2月18日（木）です。各小・中学校を会場として実施しました。
③	問題はどのような構成になっていますか	<p><4年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題数は、国語科41問、算数／数学科44問、社会科21問、理科21問です。 <p><7年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題数は、国語科46問、算数／数学科45問、社会科26問、理科26問です。 <p>*品川区小中一貫教育要領の内容に沿った「基礎基本の問題」および「活用問題」を出題しました。</p>
④	問題はどのような内容ですか	<p><4年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生までに学習する国語、算数、社会、理科に関する内容で、「読み」「書き」「計算」といった「知識や理解」「技能や表現」を中心とし、「思考や判断」も加えて問題を作成しました。 <p><7年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生から中学校7年生の間に学習する国語科、算数／数学科、社会科、理科に関する内容で、「読み」「書き」「計算」といった「知識や理解」「技能や表現」を中心とし、「思考や判断」も加えて問題を作成しました。

各小・中学校は「習熟基準」をもとに分析します

各小・中学校は、「習熟基準」をもとにして、各学校の「正答率」を分析し、学力定着の状況をつかみます。そこから指導改善の具体的な対応策を考えていきます。

各小・中学校のホームページでは、「習熟基準」と「正答率」を百分率（％）で示しています。

「習熟基準」とは、問題ごとに全体の中でどのくらいの子どもたちに正答してもらいたいという人数の割合を示したもので、品川区小中一貫教育要領をもとに教育委員会が設定したものです。この「習熟基準」は問題の難易度によって異なります。

「正答率」とは、問題ごとに、それぞれの学校において実際に正答した子どもたちの人数の割合を示したものです。

各小・中学校では、この「正答率」を「習熟基準」に照らして、学力の定着状況を判断していきます。「習熟基準」よりも「正答率」が上回っていれば、この問題に対する定着状況はおおむね良好であると言えます。

分析結果と学校の対策です

4年生、7年生ともに教科ごとに、学力定着に関する区全体の傾向等について分析しました。それぞれの問題に対しての定着状況、問題の内容、対策を示しています。また、「比較」の項目では、各問題の習熟基準に対し、区全体の正答率が上回っているものは○、下回っているものは△で示しています。

4年生

〔国語〕

(1) 漢字

① 読み

「漢字の読み」については、「品川区小中一貫教育 国語科 漢字ステージ100」3・4年生までの配当漢字の中から10問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が8問、下回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を6.4ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 漢字の読み	3・4	90%	△
② 漢字の読み	3・4	90%	○
③ 漢字の読み	3・4	90%	○
④ 漢字の読み	3・4	90%	○
⑤ 漢字の読み	3・4	90%	△
⑥ 漢字の読み	3・4	90%	○
⑦ 漢字の読み	3・4	90%	○
⑧ 漢字の読み	3・4	90%	○
⑨ 漢字の読み	3・4	90%	○
⑩ 漢字の読み	3・4	85%	○

② 書き

「漢字の書き」については、「品川区小中一貫教育 国語科 漢字ステージ100」3・4年生までの配当漢字の中から10問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が7問、下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を4.0ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 漢字の書き	3・4	70%	○
② 漢字の書き	3・4	75%	○
③ 漢字の書き	3・4	70%	○
④ 漢字の書き	3・4	80%	△
⑤ 漢字の書き	3・4	80%	△
⑥ 漢字の書き	3・4	80%	△

⑦ 漢字の書き	3・4	85%	○
⑧ 漢字の書き	3・4	80%	○
⑨ 漢字の書き	3・4	75%	○
⑩ 漢字の書き	3・4	75%	○

※学校における対策

「漢字の読み」については、8割の問題で習熟基準を上回り、無答率も低かったことから、満足できる結果でした。また、「漢字の書き」については、「漢字の読み」に比べて誤答率や無答率が高い問題もあったものの、7割の問題で習熟基準を上回ったことから、おおむね満足できる結果と言えます。

今後も、品川区小中一貫教育要領をふまえながら、「漢字ステージ100」を使った指導を確実に実施していくことが大切です。

「漢字の書き」は、定着に時間がかかります。わからない漢字があれば進んで辞書で調べるよう促し、その都度、意味や用法の確認をするよう指導することが大切です。

(2) 言語事項

「言語事項」については、「文法に関する知識」4問と「語句に関する知識」4問の計8問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が7問、下回った問題が1問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を6.8ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 主語・述語の働きを理解することができる。	3・4	75%	○
② 修飾語の働きを理解することができる。	3・4	60%	○
③ 接続語を適切に使うことができる。	3・4	85%	○
④ 伝聞と推量を正しく使い分けることができる。	3・4	70%	○
⑤ 指ししめす言葉の使い分けを理解している。	3・4	80%	○
⑥ 漢字の音訓の違いを理解することができる。	3・4	65%	○
⑦ 漢字の部首を理解することができる。	3・4	85%	○
⑧ 多義語を使い分けることができる。	3・4	80%	△

※学校における対策

「主語・述語」、「修飾語」、「接続語」、「伝聞と推量」、「指ししめす言葉」、「漢字の音訓」、「漢字の部首」は習熟基準を上回り、満足できる結果と言えます。一方、「多義語」は習熟基準をやや下回る結果となっています。

「多義語」については、例文の表している状況をとらえさせて、その言葉がどのような意味で使われているかを意識するよう指導することが大切です。日頃から文章を読むときに、文脈に応じて言葉の意味を考え、理解するよう指導していくことが大切です。

(3) 文学的文章

「文学的文章」については、4問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を1.6ポイント下回りました。学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 叙述をもとに、場面の移り変わりを読み取ることができる。	3・4	60%	△
② 叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	3・4	70%	△
③ 叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	3・4	65%	○
④ 叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	3・4	70%	○

※ 学校における対策

文学的文章では、「場面の構成把握」の正答率が、習熟基準を下回っています。

場面の移り変わりをとらえるには、設定や出来事などの変化に着目させることが大切です。場面が移り変わると、それにともない、登場人物の気持ちにも変化が表れることが多いので、登場人物の気持ちの読解にもつながります。「いつ」、「どこで」、「だれ」の話かという設定を押さえた上で、出来事（事件）を発見させることが大切です。「出来事の前、出来事、出来事の後」を比べることで、登場人物の気持ちの変化が理解しやすくなります。

(4) 説明的文章

「説明的文章」については、5問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を5.3ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 中心となる語や文に注意して、段落相互の関係をとらえることができる。	3・4	60%	△
② 細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。	3・4	60%	△
③ 細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。	3・4	50%	△
④ 細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。	3・4	70%	○
⑤ 内容を大きくまとめながら文章を読み、筆者の意見を読み取ることができる。	3・4	55%	○

※学校における対策

説明的文章では、「場面の構成把握」の正答率が、習熟基準を大きく下回っています。

説明的文章では、形式段落ごとに要点をまとめたり、文章全体をいくつかの意味段落に分けたりしながら読むことが重要です。そのためには、まず、文章全体の構成を把握することが求められます。問題提起に対する答え、例示を並べている部分、事実の列挙と筆者の意見など、大枠のつながりをとらえるよう指導することが大切です。ここから、意味段落ごとの要点や要旨をとらえて、筆者の意見を読み取ることにつなげるよう指導することが大切です。

(5) 作文

「作文」については、4問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が1問、下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を10.7ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 決められた字数の中で適切に書くことができる。	3・4	75%	○
② 考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。(二段落構成で書く)	3・4	60%	△
③ メモの内容を一つも落とさずに書くことができる。(活用問題)	3・4	65%	△
④ 読み手を意識した文章を書くことができる。(活用問題)	3・4	65%	△

※学校における対策

作文については、「読み手を意識した文章を書く」が習熟基準を大きく下回っています。

文章を書くときには、それを読む相手がいることや、何を目的としてその文章を書いているのかということ、意識して書くことが重要です。そのためには、書いた文章を相手の立場になって読み返してみるよう促すことが効果的です。また、目的に沿った文章であるかどうかを確認しながら、表現を考えるよう指導することも大切です。

4年生

[算数]

(1) 計算

「計算」については、3年生～4年生までの計算技能の定着度をみるため、「数と式の意味と計算」から16問と「数量関係」から3問の計19問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が11問、下回った問題が8問でした。全体の正答率は、全体の習熟基準を1.1ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 「3けた+3けた」の加法の筆算ができる。	3	85%	○
② 「3けた-3けた」の減法の筆算ができる。	3	80%	○
③ 「1-真分数」の減法の計算ができる。	3	85%	△
④ 「2けた÷1けた(あまりあり)」の除法の計算ができる。	3	85%	○
⑤ 「2けた×2けた」の乗法の筆算ができる。	3	85%	△
⑥ 「3けた×2けた」の乗法の筆算ができる。	3	75%	△
⑦ 「何百÷1けた」の計算ができる。	4	80%	○
⑧ 「3けた÷2けた(あまりあり)」の除法の計算ができる。	4	70%	○
⑨ 「小数+小数」の加法の計算ができる。	3	90%	○
⑩ 「小数+小数=整数」の加法の計算ができる。	3	90%	○
⑪ 「整数-小数」の減法の計算ができる。	3	80%	○
⑫ 「整数-小数(第二位)」の減法の計算ができる。	4	80%	△
⑬ 「小数(第二位)+小数(第二位)」の加法の計算ができる。	4	85%	○
⑭ 「小数(第二位)+小数(第三位)」の加法の計算ができる。	4	85%	△
⑮ 「小数-小数(第二位)」の減法の計算ができる。	4	75%	○
⑯ 「小数(第三位)-小数(第三位)」の減法の計算ができる。	4	75%	○
⑰ 四則混合の式の計算ができる。[数量関係]	4	70%	△
⑱ かっこを含む四則混合の式の計算ができる。[数量関係]	4	70%	△
⑲ 四則に関して成り立つ性質を使って計算することができる。[数量関係]	4	70%	△

※学校における対策

「1－真分数」のひき算の問題や、「計算のきまり」で、正答率が習熟基準を大きく下回りました。

「1－真分数」では、1を仮分数にすれば、分数同士のひき算と同じ考えで計算が進められることを確実に理解させることが重要です。

「計算のきまり」では、分配法則の理解が不十分なようです。練習を多く取り入れ、答えが求めやすいように工夫する計算方法を定着させる必要があります。

(2) 数と式の意味と計算

計算以外の「数と式の意味と計算」については、7問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が4問、下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を3.7ポイント下回り、学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① カードを並べて8けたの最も小さい数をつくることができる。	4	70%	△
② 千の位までの概数にすることができる。	4	80%	○
③ 数直線上に示された小数を読み取ることができる。	3	80%	○
④ 小数のしくみを理解し、千分の一の位までの数を表すことができる。	4	80%	○
⑤ わり算のきまりを使って計算し、何倍かを求めることができる。	4	80%	○
⑥ 決まりに従って、できるだけ多くのカードをはることができる。(活用問題)	4	60%	△
⑦ 概数を使って、ICカードを使った時と切符を買った時の料金を比べることができる。(活用問題)	4	60%	△

※学校における対策

「8けたの最も小さい数をつくる」では、実際にカードを並べて、どんな数をつくることができるのかを考えさせる指導が必要です。

また、「カードをはる活用問題」では、習熟基準を大きく下回りました。与えられた条件から、答えを求めるのに必要な情報を選択して解いていく方法を、十分に理解させる指導が必要です。

(3) 量と測定

「量と測定」については、8問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が7問、下回った問題が1問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を4.1ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① ある時刻の25分前の時刻を求めることができる。	3	85%	○
② 2つの時刻を比較して、その間の時間を求めることができる。	3	70%	△
③ 長さの単位 km を理解し、問題の状況に適した単位を用いることができる。	3	85%	○
④ 面積の単位 m^2 を理解し、問題の状況に適した単位を選ぶことができる。	4	80%	○
⑤ 1kgのはかりの目盛りを読み取り、2つのはかりの重さの差を求めることができる。	3	60%	○
⑥ 分度器を使って、決められた大きさの角を作図することができる。	4	70%	○
⑦ ひと組の三角じょうぎを組み合わせてつくった角の大きさを求めることができる。	4	70%	○
⑧ 複合図形の面積を求める式の意味を理解し、求め方の図と一致させることができる。	4	70%	○

※学校における対策

「時間を求める」問題について、習熟基準をやや下回りました。時間を求める計算では、位取りに注意して練習をさせる必要があります。

また、「はかりの目盛りを読む」問題では、片方のはかりの目盛りを読みとっただけで答えを選択する誤答が目立ちました。問われている重さは、はかりの目盛りを読むだけでは求められないということを、問題文から読み取る力が必要です

(4) 図形と計量

「図形と計量」については、5問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が4問、下回った問題が1問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を8.0ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 二等辺三角形の定義を理解し、その定義にあてはまらない図形を選ぶことができる。	3	80%	○
② 球の直径の意味を理解し、図から球の直径を求めることができる。	3	75%	○
③ ひし形の定義を理解し、その定義にあてはまる図形を選ぶことができる。	4	70%	○
④ 平行四角形の対角線の性質を理解している。	4	60%	△
⑤ 箱の形の辺の数について理解している。	2	75%	○

※学校における対策

「四角形の対角線の性質」の問題で、正答率が習熟基準を大きく下回りました。対角線の特徴は四角形によって異なるので、四角形の定義と関連づけた広い範囲の指導が必要です。

図形の学習では、定義を暗記するだけでなく、その定義によってどのような特徴が見られるのかを、実際に図にふれさせることによって確認し、身に付けさせる指導が必要です。

(5) 数量関係

計算以外の「数量関係」については、2問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 減法の文章問題を理解し、答えを求めることができる。	3	85%	○
② 文字を使った式で、数量を表すことができる。	4	70%	○

※学校における対策

「文字を用いて式を表す」問題で、加法なのか、乗法なのかを理解できていない誤答が多く見られました。文章題では、何を求められているかを理解させる指導が重要です。文字を使って式に表すことに慣れていないことも原因の一つであると考えられます。まず具体的な数値で式に表してから、数値を文字に置き換えていくことにより、文字を使った式に慣れさせる指導が必要です。

(6) 資料の分析

「資料の分析」については、3問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が1問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を8.2ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 二次元表のしくみを理解し、表を完成させることができる。	4	70%	△
② 折れ線グラフを読み取ることができる。	4	80%	○
③ 折れ線グラフを読み取り、変化の特徴を理解することができる。	4	70%	○

※学校における対策

「折れ線グラフ」については、変化の特徴についても、十分理解されて
いました。

「二次元表のしくみを理解する」については、やや理解が不十分のよう
です。文章や記録した数値をもとに、実際に二次元表を作成する練習を多
く取り入れることが必要です。また、表の縦の列の合計や横の列の合計か
ら、表の中のそれぞれの値を求められることを、実際に作成した表で確か
めさせると理解が深まります。

4年生

〔社会〕

(1) 品川区の特色

「品川区の特色」については、8問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が6問、下回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を4.3ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① スーパーマーケットの販売の工夫を考えることができる。	3	85%	○
② コンビニエンスストアの特徴を理解している。	3	85%	△
③ 買い物調査の結果から、スーパーマーケットの特徴を考えることができる。(活用問題)	3	60%	○
④ 業種別の工場数の表を読み取ることができる。	3	85%	○
⑤ 食品工場での作業工程を理解し、作業の順序を考えることができる。	3	90%	○
⑥ 地図の見方を理解し、探検メモから、探検したコースを考えることができる。	3	65%	○
⑦ 地図中の2地点間の方位を、八方位で書くことができる。	3	60%	△
⑧ 地図を読み取って、土地の利用状況を理解することができる。	3	65%	○

※学校における対策

「買い物調査の結果を考察する」問題や「地図で道順をたどる」問題については正答率が高く、学習の定着度は十分満足できるものであると言えます。一方で、「コンビニエンスストアの特徴を理解する」問題では、問題文に書かれている説明を誤って読んでしまったと考えられる誤答が目立ちました。また、「地図中の2地点間の方位を、八方位で答える」問題では、2地点間のどちらから見た方位かを間違えてしまったことによる誤答が多く見られました。普段の社会科学習の中で、地図を使用する機会をできるだけ増やし、地図を読み取ることに慣れさせるとともに、地図に書かれている情報を自分のことばで説明させたり、書かせたりすることが必要です。

(2) 暮らしの安全

「暮らしの安全」については、3問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を13.7ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 交通事故が起きたときの、連絡のしくみを理解している。	3	70%	○
② 警察官の仕事の内容を考慮することができる。	3	85%	○
③ 学校にある防火設備について理解している。	3	90%	○

※学校における対策

「交通事故が起きたときの連絡のしくみ」についての問題の正答率は高く、学習の定着度は十分満足できるものと言えます。暮らしの安全について、各組織の役割を理解させるとともに、各組織の関わりなどについても意識して学習させる必要があります。

(3) 健康な生活

「健康な生活」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が3問でした。

活用問題と記述式の問題の正答率が、習熟基準を大きく下回ったため、全体の正答率は、全体の習熟基準を大きく下回りました。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 浄水場の役割を理解している。	4	80%	○
② 資料から、節水の工夫を考慮することができる。 (活用問題)	4	70%	△
③ 家庭で使った水のゆくえを考慮することができる。	4	80%	△
④ 資料から、ごみ収集の工夫を考慮することができる。	4	75%	○
⑤ ごみ収集場所の案内を読み取り、ごみの分別について考慮することができる。	4	65%	○
⑥ 資料から、空きびんのリユースについて考慮することができる。	4	65%	△

※学校における対策

領域全体の正答率が低く、努力を要する分野であると言えます。特に「資料から空きびんのリユースについて考える」問題では、資料で示したしくみについて、用語の混同による誤答が目立ちました。また、「資料から節水の工夫を考慮する」問題では、資料から誤った言葉をぬき出してしまう誤答が目立ちました。

社会科では、資料に関する問題が多く出題されます。日ごろの社会科の授業の中で、多くの資料に触れ、資料を読み取ることに慣れさせる必要があります。また、資料から読み取れることを書き出させる指導や、資料に関わる知識を示し、その知識を定着させる指導も行っていく必要があります。

(4) 東京の自然

「東京の自然」については、2問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を7.4ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 資料から、東京を訪れた外国人の数や目的を理解することができる。	4	60%	○
② 資料から、三社祭のようすを考えることができる。	4	80%	○

※学校における対策

「資料から東京を訪れた外国人の数や目的について読み取る」問題や「三社祭のようすを考える」問題の正答率は高く、学習の定着度は十分満足できるものと言えます。資料を正確に読み取るには、日ごろの社会科の学習の中で、表やグラフ、しくみ図などの資料から、複数の情報を整理し、判断する力を養っていく必要があります。また、資料を読み取るだけでなく、与えられた条件から、表やグラフを作成することで、資料に慣れさせる必要もあります。

(5) 昔と今の生活

「昔と今の生活」については、2問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を大きく上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 資料から、昔と今の炊事道具の変化を考えることができる。	4	85%	○
② 資料から、昔と今の洗濯の道具の変化を考えることができる。(活用問題)	4	50%	○

※学校における対策

「資料から昔と今の洗濯の道具の変化を考える」問題と「資料から昔と今の炊事道具の変化を考える」問題では正答率が高く、学習の定着度は十分満足できるものと言えます。道具の変遷について、文字だけで説明するのではなく、イラストや写真を使って印象付けることで、知識の定着を図ることができます。また、記述する力を伸ばすために、調べたことや考えたことを書かせるように指導していくことが必要です。

4年生

[理科]

(1) 生命

「生命」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が4問、下回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を7.1ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 植物のつくりを理解している。	3	70%	○
② 資料から、植物の地域による育ち方の違いを考えることができる。(活用問題)	3	60%	○
③ 植物の種子の違いを理解している。	3	70%	△
④ 人の腕のつくりを理解している。	4	80%	○
⑤ 腕の筋肉のしくみを理解している。	4	60%	△
⑥ 頭の骨の役割を考えることができる。	4	70%	○

※学校における対策

3年生で学習した「植物のつくりと成長」のうち、植物の種子についての問題が習熟基準を下回っていました。植物の観察を行うときに、種子や葉の形の特徴、花卉のつき方や色などに児童の注意を向けさせ、身近な生き物に対する興味・関心をもたせる工夫をするとよいでしょう。

4年生で学習する「人の体のつくりと運動」では、腕の筋肉のしくみについての問題が習熟基準を下回っていました。実際に腕を曲げたときに、腕の上下で筋肉の硬さにどのような違いがあるかを確かめさせ、どのようなしくみで腕が曲がるのか、よく理解させることが必要です。また、考えを言葉で表現する機会を設けるようにするとよいでしょう。

(2) 物質

「物質」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を1.9ポイント下回りました。学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 空気鉄砲のしくみを考えることができる。 (活用問題)	4	65%	△
② 閉じ込めた空気の性質を理解している。	4	70%	△
③ 閉じ込めた水の性質を理解している。	4	60%	○
④ 閉じ込めた空気に加えた力と空気の体積の変化を理解している。	4	60%	○
⑤ 磁石につくものとつかないものがあることを理解している。	3	60%	△
⑥ ものの重さはそれぞれ違っていることを理解している。	3	75%	○

※学校における対策

「閉じ込めた空気や水の性質」の内容のうち、空気の性質についての理解がやや弱いと思われます。空気鉄砲の実験を通じて、空気を大きく圧縮するほど大きな力が必要であることを体感的によく理解させることや、密閉されていない状態では空気を圧縮できないということを、丁寧に指導していくことが必要です。

また、「ものの種類」については、磁石につくものとつかないものについての問題が、習熟基準を下回っています。身近な金属のうち、磁石につくものは鉄だけであるということを、確認する必要があります。

(3) エネルギー

「エネルギー」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が4問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を3.2ポイント下回りました。学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 豆電球のつくりや、乾電池のつなぎ方を理解している。	3	60%	△
② 電気の通り道について理解している。	3	60%	○
③ プラスチックの性質について、説明することができる。	3	60%	○
④ 乾電池のつなぎ方とモーターの回る向きについて理解している。	4	70%	△
⑤ 乾電池のつなぎ方の種類と特徴を理解している。	4	65%	△
⑥ 光の当たり方と光電池から流れる電気の強さの関係を理解している。	4	70%	△

※学校における対策

4年生で学習した「電気のはたらき」については、多くの問題で習熟基準を下回っています。豆電球のしくみについては、豆電球の中のどの部分を電流が流れて光るのか、実際に実験をしながら理解させていく必要があります。

乾電池の向きが変わるとモーターの回転の向きや速さが変わることは、単なる知識として覚えさせるのではなく、実験の中でいろいろなつなぎ方を試させることによって実感を伴った理解をさせることが大切です。

光電池については、日光が垂直に当たるときに発電量が最大となることを理解させた上で、日光の向きが変わったときには光電池がどのような向きになると垂直といえるか、問いかけてみるなどの指導が有効です。

(4) 地球

「地球」については、3問を出題しました。結果は、習熟基準を下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を14.2ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 時間の経過による星や月の動き方について理解している。	4	60%	△
② 北の空の星座について理解している。	4	65%	△
③ 北極星と星座の位置関係を理解している。	4	60%	△

※学校における対策

「星と月」の内容は、すべての問題で習熟基準を下回っています。星座の名称や、観察する方角による星や月の動き方の違いなど、今後も身近な現象について興味をもたせ、観察を通じた学習を継続する必要があります。

また、星や星座の位置関係の理解ができていないと考えられる解答が目立ちました。星座の名称や、星の位置関係についての理解を定着させるためには、近くにある星座について自分で実際に調べさせることが有効です。星座早見を使いながら自分自身で工夫して観察を行っていくことで、天体の位置関係への理解を深めていくことができるでしょう。

7年生

〔国語〕

(1) 漢字

① 読み

「漢字の読み」については、「品川区小中一貫教育 国語科 漢字ステージ100」5年生～7年生までの配当漢字から10問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が7問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を5.8ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 漢字の読み	5・6・7	80%	○
② 漢字の読み	5・6・7	80%	△
③ 漢字の読み	5・6・7	80%	△
④ 漢字の読み	5・6・7	80%	△
⑤ 漢字の読み	5・6・7	80%	○
⑥ 漢字の読み	5・6・7	80%	○
⑦ 漢字の読み	5・6・7	90%	○
⑧ 漢字の読み	5・6・7	80%	○
⑨ 漢字の読み	5・6・7	80%	○
⑩ 漢字の読み	5・6・7	80%	○

② 書き

「漢字の書き」については、「品川区小中一貫教育 国語科 漢字ステージ100」5年生～7年生までの配当漢字から10問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が5問、下回った問題が5問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を3.2ポイント下回りました。学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 漢字の書き	5・6・7	70%	○
② 漢字の書き	5・6・7	50%	○
③ 漢字の書き	5・6・7	60%	△
④ 漢字の書き	5・6・7	70%	△
⑤ 漢字の書き	5・6・7	70%	△
⑥ 漢字の書き	5・6・7	70%	○
⑦ 漢字の書き	5・6・7	90%	△
⑧ 漢字の書き	5・6・7	70%	○
⑨ 漢字の書き	5・6・7	80%	○
⑩ 漢字の書き	5・6・7	70%	△

※学校における対策

「漢字の読み」は習熟基準を7割の問題で上回っているのに対し、「漢字の書き」では習熟基準を上回った問題は5割でした。
 全体的に「漢字の書き」に重点を置いて学習する必要があります。
 「漢字ステージ100」を使った指導を確実に実施し、例文の中で用法を確認しながら学習するようにしましょう。
 また、活用のある言葉の送りがなは、変化する部分から送るというきまりを理解させることが大切です。

(2) 言語事項

「言語事項」については、「文法に関する知識」4問と「語句に関する知識」7問の計11問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が8問、下回った問題が3問でした。
 全体の正答率は、全体の習熟基準を6.0ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 文を文節に区切ることができる。	5・6・7	80%	○
② 文節どうしの関係を理解することができる。	5・6・7	70%	○
③ 主語・述語の関係を理解することができる。	5・6・7	80%	△
④ 指示する語句を適切に使い分けることができる。	5・6・7	80%	○
⑤ 接続語を使い分けすることができる。	5・6・7	90%	○
⑥ 敬語の使い方を理解している。	5・6・7	70%	○
⑦ 「そうだ」の意味の違いを理解している。	3・4	80%	△
⑧ 漢字の組み立てと部首を理解している。	3・4	80%	△
⑨ 熟語の構成について理解することができる。	5・6・7	60%	○
⑩ 故事成語の意味を理解している。	3・4	60%	○
⑪ 同訓異字を使い分けすることができる。	3・4	70%	○

※学校における対策

言語事項では、「主語・述語の関係」、「『そうだ』の意味の違い」、「漢字の組み立て」の正答率が習熟基準を下回っています。「主語・述語の関係」では、まず述語となる部分を確定させ、その述語に対応する主語を考えさせるようにしましょう。「『そうだ』の意味の違い」は、「らしい」などの別の言葉に置き換えて考えさせたり、文章から正確に意味を判断できるように、短文を使って練習を重ねたりするようにします。「漢字の組み立て」では、その熟語の意味を理解させて指導することが望まれます。いずれも、言葉の意味を理解させたり、解法を丁寧に指導したりして、繰り返し問題を解くことで知識の定着を図りましょう。

(3) 文学的文章

「文学的文章」については、5問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が4問、下回った問題が1問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を10.9ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 登場人物の心情を読み取ることができる。	5・6・7	70%	○
② 登場人物の心情を読み取ることができる。	5・6・7	70%	○
③ 文脈から話の内容を理解することができる。	5・6・7	60%	○
④ 登場人物の心情を読み取ることができる。	5・6・7	60%	○
⑤ 文脈から話の内容を理解することができる。	5・6・7	60%	△

※学校における対策

「文脈からの読解」の正答率は、全体の中で低い傾向にあります。文脈から話の内容を読み取るには、文章の展開を正しく理解し、登場人物の言動や様子、情景などに着目して読むことが大切です。また、登場人物同士の関係やその変化を整理してまとめることも必要です。

(4) 説明的文章

「説明的文章」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を1.6ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 文章の内容相互の関係をとらえることができる。	5・6・7	60%	△
② 文章の要旨をとらえることができる。	5・6・7	60%	○
③ 段落相互の関係をとらえることができる。	5・6・7	60%	○
④ 筆者の考えを読み取り、適切に書くことができる。 (決められた字数で書く)	5・6・7	60%	△
⑤ 筆者の考えを読み取り、適切に書くことができる。 (適切にまとめる)	5・6・7	60%	○
⑥ 文章の要旨をとらえることができる。	5・6・7	70%	△

※学校における対策

説明的文章では、「文章の内容相互の関係をとらえる」とことと「文章の要旨をとらえる」ことに課題があると言えます。

説明文を読む際には、筆者が話題についてどのように説明しているのかを理解することが重要です。そのためには、段落ごとの内容を整理して、意味段落でまとめるなどして、文章の構成を正確につかんでいくことが求められます。文章構成を把握した上で、要旨をとらえるように指導することが大切です。

(5) 作文

「作文」については、4問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が2問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を0.8ポイント下回りました。学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 決められた字数の中で適切に書くことできる。	5・6・7	70%	○
② 二段落構成で書くことができる。	5・6・7	70%	○
③ グラフから読み取れる内容について、簡潔にまとめることができる。(活用問題)	5・6・7	70%	△
④ 自分の考えを書くことができる。(活用問題)	5・6・7	50%	△

※学校における対策

「グラフから読み取れることをまとめて書く」とことと「自分の考えを書く」ことについて、課題が見られます。

理由や根拠を明確にして自分の考えを書けるようになるためには、資料として提示されている複数の情報を関連づけて考え、自分の考えの根拠として書けるようにする指導を行うことが有効です。

7年生

[数学]

(1) 計算

「計算」については、4年生～7年生までの計算技能の定着度を見るため、「数量関係」から1問と「数と式の意味と計算」から16問の計17問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が12問、下回った問題が5問でした。全体の正答率は、全体の習熟基準を2.1ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① カッコを含む四則混合の式の計算ができる。 [数量関係]	4	80%	△
② 小数×小数の乗法の計算ができる。	5	80%	○
③ 小数÷小数の除法の計算ができる。	5	80%	○
④ 異分母の分数の加法の計算ができる。	5	80%	○
⑤ 分数の乗法の計算ができる。	6	80%	○
⑥ 分数の除法の計算ができる。	6	80%	○
⑦ 分数・小数を含む四則混合の計算ができる。	6	65%	△
⑧ 正負の数の加法の計算ができる。	7	85%	○
⑨ 正負の数の乗法の計算ができる。	7	85%	○
⑩ 正負の数の小数の加減の計算ができる。	7	65%	○
⑪ 正負の数の分数の加法の計算ができる。	7	65%	△
⑫ 正負の数の分数の除法の計算ができる。	7	65%	○
⑬ 正負の数の累乗の計算ができる。	7	80%	△
⑭ 正負の数の四則混合の式の計算ができる。	7	70%	△
⑮ 文字式の除法の計算ができる。	7	80%	○
⑯ 一次式の加法と減法の計算ができる。	7	75%	○
⑰ 分配法則を用いる文字式の計算ができる。	7	65%	○

※学校における対策

計算では、4年生・7年生の共通問題として、「カッコを含む四則混合計算」を出題しましたが、7年生ではやや努力を要する結果となりました。小学校で学習した計算の基礎は、中学校で数学を学習する上でも基本となるため、授業の開始前に確認テストを行うなど、反復学習が必要となります。

正負の数の計算では、符号を考慮しないために誤っている解答が見受けられました。正負の符号を意識して計算を行うように、早い段階で慣れさせておきましょう。

また、式にかっこや累乗が含まれると、正答率が下がる傾向にあります。小学校の計算と合わせて、習得させていく必要があります。

(2) 数と式の意味と計算

計算以外の「数と式の意味と計算」については、8問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が5問、下回った問題が3問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を1.6ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 2つの整数の最小公倍数を求めることができる。	5	70%	△
② 2つの整数の最大公約数を求めることができる。	5	70%	△
③ 正負の数の数直線を読むことができる。	7	80%	○
④ 正負の数の大小関係を判別することができる。	7	85%	○
⑤ 文章題の数量関係を不等式で表すことができる。	7	80%	△
⑥ 比例式を解くことができる。	7	85%	○
⑦ 速さの関係を表した方程式の意味がわかる。	7	60%	○
⑧ 文章題の数量関係を方程式で表すことができる。	7	60%	○

※学校における対策

「最小公倍数」と「最大公約数」の問題が、習熟基準を下回りました。5年生での学習後も、定期的に復習する機会を設けるとよいでしょう。

「関係を方程式で表す」問題の正答率は、習熟基準を上回っている一方で、「関係を不等式で表す」問題の正答率は、習熟基準を下回りました。不等号の意味を確実に理解させる必要があります。

「速さの関係を表した方程式」の問題では、道のりと速さを逆にしてしまう誤答が見られました。速さの関係は、割合とともに、生徒にとって定着しにくい単元です。方程式の学習の際に、プレ学習として速さの関係を整理しておくといよいでしょう。

(3) 量と測定

「量と測定」については、1問を出題しました。結果は、習熟基準を大きく上回った問題が1問でした。

学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 平均の考え方をを用いて、表の空欄に当てはまる数を求めることができる。	5	65%	○

※学校における対策

「平均の考え方をを用いる」問題は、よく定着していると言えます。今後は平均の考え方をを用いて色々な問題に対応できるよう、平均のもつ意味や平均を求める計算の工夫などを意識させることが重要です。

(4) 図形と計量

「図形と計量」については、11問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が6問、下回った問題が5問でした。
 全体の正答率は、全体の習熟基準を1.0ポイント上回りました。学習内容の定着度は、おおむね満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 三角形の内角と外角の関係を理解している。	5	75%	○
② 四角形の内角の和を理解している。	5	85%	△
③ 平行四辺形の面積を求めることができる。	5	80%	△
④ 台形面積を求めることができる。	5	80%	○
⑤ 半円を含む図形面積を求めることができる。	6	80%	○
⑥ 2つの合同な四角形の対応する辺や角がわかる。	5	80%	○
⑦ 角の二等分線の作図ができる。	7	60%	△
⑧ 立方体の展開図から、面と面の関係がわかる。	4	70%	○
⑨ 直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる。	5	60%	○
⑩ 円柱を含む立体の体積を求めることができる。	6	60%	△
⑪ 点が動いてできる曲線の長さを求める式をつくることできる。	7	60%	△

※学校における対策

「合同な図形の対応」、「立方体の展開図」の正答率は、習熟基準を大きく上回る結果となりました。
 その一方で、「点が動いた軌跡の長さ」を求める問題では、円周の長さの公式を正しく理解し、図形に適用することに課題が見られました。公式の丸暗記ではなく、公式の持つ図形的な本質をとらえることについて、指導していくことが必要です。
 また、「円柱を含む立体の体積」を求める問題では、円柱の体積の求め方を誤って理解している解答が多く見られました。円柱の体積を求める公式の意味をよく考えさせて、確実な定着を図る必要があります。

(5) 「数量関係」

計算以外の「数量関係」については、4問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が1問、下回った問題が3問でした。
 全体の正答率は、全体の習熟基準を3.8ポイント下回りました。学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 比の値を求めることができる。	6	70%	△
② 表から比例の関係を読み取り、一方の値から他方の値を求めることができる。	7	80%	○
③ 比例の関係を式で表すことができる。	7	60%	△
④ 反比例の式からグラフを選ぶことができる。	7	60%	△

※学校における対策

比例と反比例の問題には、課題が残りました。「表から比例の関係を読み取る」問題はよく理解できていましたが、「比例の関係を式で表す」、「反比例の式からグラフを選ぶ」問題は習熟基準を下回りました。比例の式では、具体的な数値を当てはめたときに式が成り立つことを確認させることで理解が深まります。同じことが、表やグラフでも適用できます。また、「反比例の式からグラフを選ぶ」問題では、符号を誤って認識している誤答が多く見られました。比例定数が正の場合と負の場合で、グラフの形がどのように変わるかを確認させることが必要です。

(6) 資料の分析

「資料の分析」については、4問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が1問でした。全体の正答率は、全体の習熟基準を7.1ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① ならべ方の場合の数を求めることができる。	6	60%	○
② 樹形図の意味を理解することができる。	6	60%	○
③ 2つのグラフを読み取り、割合を使って値を求めることができる。(活用問題)	5	55%	△
④ 2つのグラフから、割合を使って数量の大小を比較することができる。(活用問題)	5	55%	○

※学校における対策

「ならべ方の場合の数」を求める問題は、習熟基準を上回っています。「樹形図の意味」を問う問題では、ならべ方と組み合わせ方の意味を混同している誤答が多く見受けられました。樹形図を書き、順序正しく数え上げることが大切です。一方で、「グラフを読み取り、割合を使って値を求める」問題では、習熟基準を下回りました。複数のグラフを組み合わせる問題に慣れさせ、与えられた情報から総合的に判断する能力を高めることが必要です。

7年生

〔社会〕

(1) 国や地域

「国や地域」については、12問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が6問、下回った問題が6問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を3.5ポイント下回りました。学習内容の定着度は、やや努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 2つの図法の世界地図を読み取ることができる。	7	70%	○
② 世界の宗教の特色を理解している。	7	80%	△
③ 世界の気候について理解している。	7	70%	△
④ 世界の米の生産量と輸出量のグラフを、読み取ることができる。	7	70%	○
⑤ 世界の面積、人口、貿易額を比べたグラフを読み取ることができる。	7	65%	○
⑥ 資料から、アフリカ州の鉱産資源について考えることができる。	7	70%	△
⑦ 日本の国土とその周りのようすについて理解している。	5	70%	△
⑧ 日本の気候区分を理解している。	5	70%	△
⑨ 資料から、日本の米づくりの変化を考えることができる。(活用問題)	5	70%	○
⑩ 資料から、日本のおもな貿易相手国と貿易額を読み取ることができる。	5	65%	△
⑪ インターネットの正しい使い方を理解している。	5	80%	○
⑫ 自動車生産の作業の順番を正しく理解している。	5	65%	○

※学校における対策

地理分野では、「アフリカ州の鉱産資源」、「日本の気候区分」、「日本のおもな貿易相手国」、「日本の位置」の問題で習熟基準を大きく下回りました。「日本の気候区分」、「日本のおもな貿易相手国」の問題は、いずれも資料を正しく読み取れていない生徒が多かったと考えられます。地理の学習では、地図やグラフなどの資料の読み取りが大変重視されますので、普段の授業から、資料の読み取り方を丁寧に解説することが大切です。

「日本の位置」の問題では、世界の中の日本の位置や、日本の領域について正しく理解させるために、普段から、地図帳などを使った視覚に訴える指導が必要です。生徒たちに地図帳を見る習慣づけを図ることで、より確かな知識の定着が期待できます。

(2) 我が国の歴史

「我が国の歴史」については、10問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が7問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を14.3ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 鎌倉幕府のしくみを理解している。	6	80%	△
② 織田信長の政治を理解している。	6	80%	△
③ 江戸幕府の鎖国までの流れを理解している。	6	80%	○
④ 明治政府の近代化政策について理解し、身分の変化について考えることができる。	6	80%	△
⑤ 資料から、自由民権運動について考えることができる。	6	70%	△
⑥ 資料から、戦後の選挙制度改革について考えることができる。(活用問題)	6	70%	△
⑦ 資料から、古代の日本の食べ物について考えることができる。	7	70%	○
⑧ シルクロードについて理解している。	7	70%	○
⑨ 聖徳太子の政治について理解している。	7	80%	△
⑩ 平安時代の文化を理解している。	7	70%	△

※学校における対策

歴史分野からは、6年生の範囲の問題が6問、7年生の範囲の問題を4問出題しました。

6年生の内容では、「鎌倉幕府のしくみ」に関する問題で、漢字の誤りが多く見られました。社会科の学習では、用語を正確に漢字で書くことも重要です。日頃から正しく書く意識を持たせることが大切です。

「自由民権運動」に関する問題は、用語の意味を正しく理解していれば難しくない問題ですが、習熟基準を大きく下回りました。

用語の丸暗記ではなく、出来事の意味や背景を、確実に理解させるよう、一層の指導が必要です。

7年生の内容では、「聖徳太子の政治」の問題が、習熟基準を大きく下回っていました。資料の読み取りに課題があります。普段の授業から、資料の読み取り方を丁寧に解説することが必要です。

(3) 我が国の政治

「我が国の政治」については、4問を出題しました。結果は、習熟基準を下回った問題が4問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を大きく下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 日本国憲法の内容を理解している。	6	70%	△
② バリアフリーについて理解している。	6	70%	△
③ 裁判所の仕事内容について正しく理解している。	6・7	65%	△
④ 三権分立のしくみを理解している。	6・7	65%	△

※学校における対策

政治分野の問題はいずれも習熟基準を下回っており、今後の学習の中で定着が求められます。中でも、「日本国憲法」の内容を問う問題では、誤答が多く見られました。日本国憲法の成立過程や基本原則について具体的にノートに整理させるなど、生徒に考えさせ、文章でまとめさせる指導が効果的です。また、国民の祝日など身近な具体例から政治と関連させる指導も理解を深める一助となるでしょう。

また、「三権分立」に関する問題も正答率が低くなっていました。国会の役割と内閣の役割を混同してしまっている生徒が多く見られました。三権分立のしくみ図は、公民の政治学習の重要な位置を占めるもので、正確に理解することが大切です。普段の学習の中で、国会や内閣、裁判所のそれぞれの役割について、生徒たちにしくみ図をまとめさせるなど能動的な学習を通じて、理解を深めさせるようにしましょう。

7年生

[理科]

(1) 生命

「生命」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が4問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を8.9ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① ルーペの使い方を理解している。	7	60%	○
② 植物のからだのつくりを理解している。	7	60%	○
③ 双子葉類の茎のつくりを理解している。	7	80%	△
④ 食物連鎖について理解している。	6	70%	△
⑤ 生物どうしの食物連鎖の関係がわかる。	6	75%	△
⑥ 生物間での気体のやりとりを理解している。	6	55%	△

※学校における対策

7年生で学習した「ルーペの使い方」、「植物のからだのつくり」の問題は習熟基準を上回りました。基本的な知識は定着している様子が見られます。

一方、6年生で学習した「生物どうしのつながり」の単元では、習熟基準を大きく下回る問題がありました。基本的な用語の定着だけでなく、呼吸や光合成に伴う気体のやりとりや、生物同士の食べる・食べられるの関係を、図を用いて視覚的に理解させる必要があります。生物と環境とのかかわりを意識させることで、身の回りの生物や自然に対する興味・関心をもたせるようにすることが大切です。

(2) 物質

「物質」については、8問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が5問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を9.8ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 水の状態変化のようすを理解している。	7	60%	△
② ロウの状態変化のようすを理解している。 (活用問題)	7	55%	○
③ 二酸化炭素を発生させるしくみを理解している。	7	60%	△
④ 二酸化炭素の集め方がわかる。	7	60%	△
⑤ 二酸化炭素の水溶液の性質を理解している。	7	55%	○
⑥ ろ過のしかたを説明できる。	7	50%	○
⑦ 飽和水溶液について理解している。	7	70%	△
⑧ 食塩水を再結晶させる方法がわかる。	7	60%	△

※学校における対策

「ロウの状態変化」、「二酸化炭素の水溶液の性質」、「ろ過のしかた」の問題は、習熟基準を上回りました。基本的な知識は定着していると言えます。

一方で、文章記述の問題になると正答率が大きく下回る様子が見られました。普段から、自分の考えを言葉で表現させる機会を設けることが必要です。実験を行う際は、実験の結果だけでなく、結果の考察や実験操作の理由にも注意を向けさせるなど、主体的に思考する力がつくような指導を行うことが、応用力をのばすことにつながります。

(3) エネルギー

「エネルギー」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が4問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を7.9ポイント下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 音が出るしくみを理解している。	5	60%	△
② 糸電話のしくみを理解している。	5	60%	△
③ 糸の振動と音の伝わり方の関係を理解している。	5	55%	○
④ 手回し発電機の回し方と電流の変化を理解している。	6	85%	△
⑤ 手回し発電機からコンデンサーへの充電のしかたがわかる。	6	60%	△
⑥ 豆電球とLEDの違いを理解している。	6	60%	○

※学校における対策

5年生で学習した「音」の単元では、「音の出るしくみ」、「糸電話のしくみ」の問題で習熟基準を下回っていました。音を伝えるものの種類によって、音の高さや大きさが異なることを、実験で確かめさせる機会を設けるとよいでしょう。

6年生で学習した「電気の利用」の単元については、LEDに関する問題で習熟基準を上回りました。最近とり上げられている話題とあわせて、知識を増やしていくことが大切です。

一方、この領域の問題で、習熟基準を大きく下回る問題がありました。手回し発電機やコンデンサーは、実物を用いて実験させ、操作方法や注意点を理解させることが重要です。

「エネルギー」の領域では、実験の機会を増やすことで、実感を伴う理解をさせるようにしましょう。

(4) 地球

「地球」については、6問を出題しました。結果は、習熟基準を下回った問題が6問でした。

全体の正答率は、全体の習熟基準を大きく下回りました。学習内容の定着度は、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	比較
① 月の満ち欠けのしくみがわかる。	6	75%	△
② 1日の月の動きがわかる。	6	75%	△
③ 月の満ち欠けのようすを理解している。	6	60%	△
④ 空を見上げたときの方角を考えることができる。(活用問題)	5	50%	△
⑤ 入道雲(積乱雲)の特徴がわかる。	5	75%	△
⑥ 雲画像を見て、天気の変り変わりを予想できる。	5	75%	△

※学校における対策

すべての問題で、習熟基準を下回りました。

「月と太陽」の単元では、模型を用いた実習で、月の形の変化を確認させるとよいでしょう。模型の形の見え方の変化と、実際に観察させた月の様子に関連づけて理解させることが重要です。

「天気の変化」の単元は、日常生活と関連づけやすい分野です。家庭や校外学習で実際に観察する機会を設けて、体験の中で知識を身につかせましょう。